

実践報告

看図アプローチを活用したオンライン授業の実践（2） —写真をビジュアルテキストにした「教育学」授業のすすめ方—

石田ゆき¹⁾

ISHIDA Yuki

キーワード：看図アプローチ・オンライン授業・Teams・アクティブラーニング・医療系大学

概要

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、筆者の勤務校でもオンライン授業を実施することになった。前報では、看図アプローチは、オンライン授業でも対面授業に劣らない質の授業を提供できることを報告した。前報では「絵図」をビジュアルテキストとしたが、本研究では「写真」をビジュアルテキストとして活用した授業モデルを提案する。写真をビジュアルテキストとして活用しても、学習者は意欲的に授業に参加していた。また主体的・対話的で深い学びにつながる授業にもなっていた。

Ⅰ．問題と目的

新型コロナウイルスの影響で、2020年度開始から筆者の勤務校でもオンライン授業が実施されることになった。前報の実践により、看図アプローチ基盤型オンライン授業のモデルを示すことができた。今後もオンライン授業が継続されていく可能性は高い。このため、看図アプローチ基盤型オンライン授業レポトリを増やしていく必要がある。第1回目授業では、ビジュアルテキストとして「絵図」を用いた授業モデルを提案したが、第2回目授業では「写真」を用いた授業モデルを提案する。なお今回も、前報同様 Microsoft の Teams を使った授業である。

Ⅱ．授業の目標等

Ⅱ－１ 授業科目・授業者・学習者等

本稿で紹介するのは前報と同じ、医療系 A 大学・リハビリテーション学科 2 専攻（理学療法・作業療法）の学生たちに行った「教育学」授業である。全 8 回授業（1 単位）の第 2 回目実践（90

分）を報告する。授業者は本稿筆者石田ゆき、学習者は理学療法 75 名・作業療法 17 名、計 92 名、全員 1 年生である。

なお次のような倫理的配慮をした。受講者からはレポート等を授業の中で紹介すること及び論文等で紹介することについての承諾を書面によって得ている。承諾を得られなかった学生（承諾書未提出も含む）の資料は活用していない。このため、受講登録者は 92 名であるが、分析や考察には 82 名分のデータを用いた。

Ⅱ－２ 「教育学」授業の全体目標及び本授業の到達目標

「教育学」授業の全体目標及び今回の授業の到達目標については、前報同様である。そのため以下に再掲しておく。

現在の日本では話すこと・聞くこと・書くこと・読むことの 4 つのスキルによって学力が形成されている。しかし、英語圏や中国語圏では、この 4 つのスキルに加えて「みること」による学力形成がはかられている（奥泉 2018, 鹿内

1) 日本医療大学

2015a,2015b)。

将来医療系の職業に就く学生たちにとっても「みること」は必要不可欠な学力となってくる。そこで筆者が担当している「教育学」では、学習者が将来必要となる「みる学力」＝「ビジュアルリテラシー」を育成することも目標としている。

II-3 授業者の検討目標

どのような状況下であろうと、学習者に「主体的・対話的で深い学び」ができる授業を提供するのが教員の使命である。第1回目授業に引き続き、オンライン授業においてアクティブラーニングを引き出す教材構成・授業構成の原理を明らかにしていく必要がある。そこで今回は、次のような「授業者の検討目標」も設定した。

看图アプローチを活用したオンライン授業で、「主体的・対話的で深い学び」をどれだけ達成できるか探索的に検討する。

III. 第2回目授業の実践

III-1 導入

授業開始から13分程度は、Teamsの機能を使った出席の入力作業やレポート提出方法の確認等第1回目授業でも行ったガイダンスの補足をした。授業がオンライン化したことで今回初めて、メールを活用したレポート提出方法をとった。しかし想定以上にメールの送受信トラブルが多かったため、gmail 以外に Teams の個人チャットを活用した提出も可とした。

そのあと、前回授業の課題レポートを紹介する「前回のふりかえりコーナー」の時間を設けた。「前回のふりかえりコーナー」は、教室で対面できない学生間の意見交流の場としても大切だと考え設定した。今回は7名分のレポートを紹介している（例えばスライド1・スライド2）。重要な部分には下線を付し、適宜コメントを述べながらすすめていく。なお今回使用するスライドもすべて、アニメーション機能を活用し、テキスト情報は一行または一文ずつ順番に呈示していく。授業者は、補足説明を加えつつそれを読み上げていく。

ここまでで40分ほどが経過しており、5分の休憩時間をとった。この5分休憩は大学の授業構成方針に従ったものである。



前回のふりかえりコーナー

Aさん

アクティブラーニングが取り入れられている事は高校の時から何となく知ってはいましたが授業でしている感覚はあまりなく通っていた高校ではあまりやっていなかったのかなと思いました。これが課題になっていることも初めて知り、見る教材があるということも初めて知りました。

今日の見る教材を使って行っていた授業は私自身とても楽しく面白く学べる事が出来たなと感じます。チャットでみんなの考えを知れたり自分の考えを比較したりしてネットってすごいなと改めて感じましたし、自分から発言したり書き込むことは苦手なのですが少し楽に書き込むことができました。これから少しずつ自分から発言することを頑張っていきたいと思います。

スライド 1



前回のふりかえりコーナー

Bさん

今日の講義では、日本の教育に足りない「みる学習」について学びました。実際にみる学習をやってみて、確かに今日のような授業は高校まではやっていなかったなと感じました。今日の講義のような授業を高校までに普通の授業のように受けていたら、今の私にはない感性を持つことができ、今の私には気付くことが出来ないようなことにも気付くことができるのかなと考えました。

スライド 2

第2講

教育の社会的役割(1)

2020.5.21

「主体的で対話的で深い学び」

↓

「**主体的対話**で深い学び」

スライド 3

スライド3では「オンライン授業のため『主体的で対話的で深い学び』の『対話的』の部分が多い。チャットを活用しながら他の人の意見を

『主体的に』見てとらえて、ひとりひとりの中で『深い学び』につなげていってほしい。『主体的に対話する』という意識をもって授業に臨んでほしい。」という主旨の内容を口頭で伝えた。

III-2 授業の展開

次のように伝え授業を展開させていく。「教育ってすごく広い言い方をしていますけれども、学校の中のことだけじゃなくて、もっと外の世界、社会に目を向けさせるっていうことも教育にとって大事な役割のひとつだと思います。ということから、今回もちょっとユニークな題材を使っていきます。また『見ること』を通して学んでいきたいと思います。今日は写真を使っていきます。」



スライド 4

スライド 4 を呈示する。まずは写真を、続けて Q 1 を表示する。次のように伝える。「この建物は何でしょうか。（Q 1 について）ひらめいた人、チャットに、そのひらめきをあげてみてください。」この指示の直後 10 秒ほどでチャットには次のようなものがあげられた（チャット記録 1）。2 分ほどの間に 58 件の回答が寄せられた。学生のチャット反応が早かったので、授業者は順に読み上げながら内容共有していった。なお、以降で紹介するチャット記録では、「論文等での紹介」について承諾が得られなかった学習者の書き込みには内容部分にもモザイクをかけている。

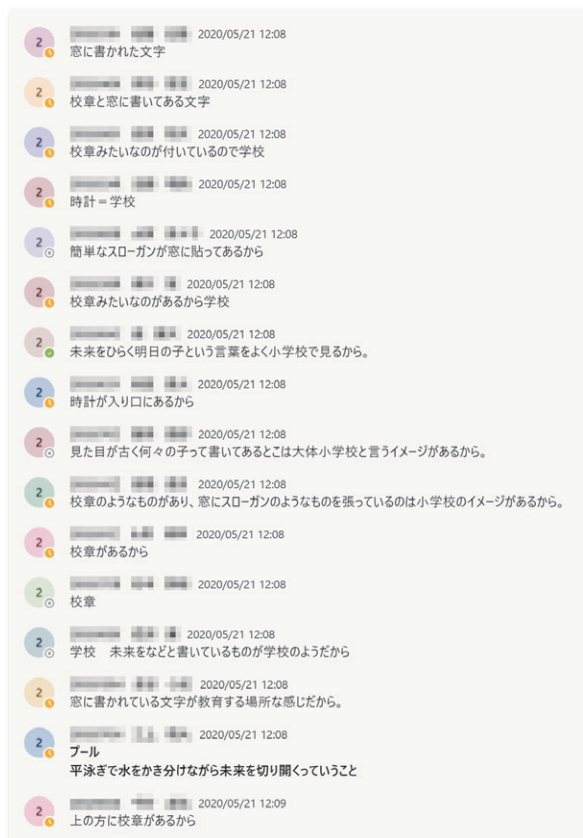
全回答の内訳は次のようになっている。小学校 33 件、学校 15 件、幼稚園 3 件、保育園（所）3 件、児童館 2 件、プール 1 件、廃校寸前の小学校 1 件。



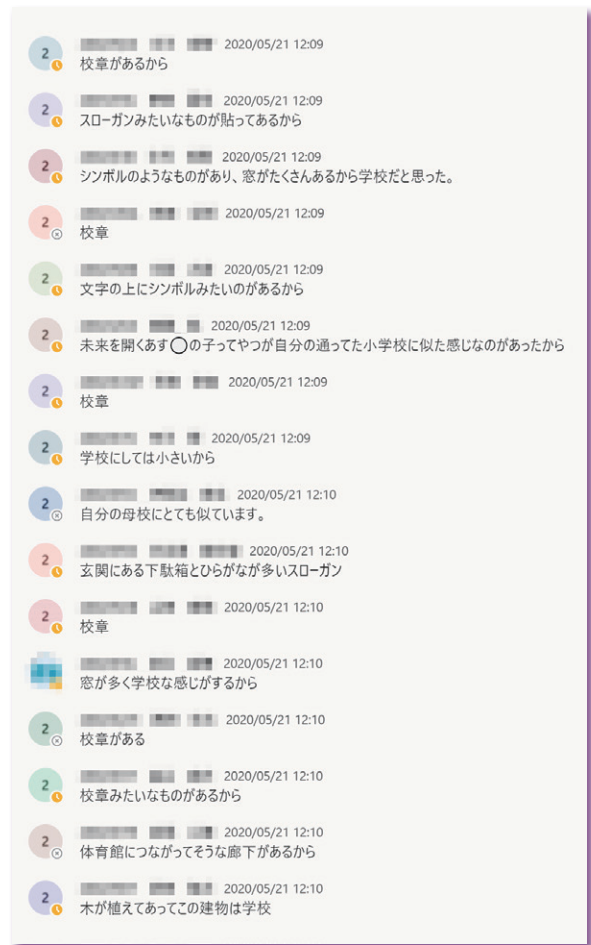
チャット記録 1

なお、「廃校寸前の小学校」という回答には 1 名の学生から「👍1」（いいね！）が押されていた。授業者からはこの機能を使うようにという指示は一切出していなかった。しかしこの頃から、チャットに慣れた学生から自発的に他の意見を評価する動きが見られるようになった。

次にスライド4のQ2に移っていく。次のように指示した。「みなさん反応が早くてびっくりです。はい、では大事なのは次からです。そのように判断する根拠をあげてください。で、例えばですよ。こんなものとかこんなものがあるからこの建物なんじゃないかと思いました。あるいはこうこう、こうなのでこの建物なんです。っていうふうにそれを聞いた人が納得するような根拠をあげて、だからこの建物なんだ。というのを説明してみてください。」この指示のあと、各自ノートに書く時間（個人思考）を約2分とり、チャットに書くよう指示した（チャット記録2・3）。このQ2に対しては約4分の間に全部で54件の回答があった。この時間の中で学習者にはチャット欄を見るよう促し、授業者は「プール」や「時計」等の「もの」を確認したりしながら共有していく。ユニークな回答には授業者が思わず笑いを発してしまった場面もある。



チャット記録2



チャット記録3

次のステップで、この建物は何なのかの確認をしていく。「この建物の、向かって右側がどうなっているかを見てみましょう」と言いつつスライド5を呈示する。



スライド5

そしてもう一度スライド4を表示し、「この建物は小学校です。みなさん色んなところ見てくれ

てそれぞれ書いてくれたこと全部、判断の根拠となることだと思います。」と伝え、この建物は小学校であることを確認した。

さらに、スライド 4 に写っている「あす〇の子」の部分（図 1）についても考えてもらう。ここでは「未来をひらくあす…何の子。思いついたらチャットに書いてくれていいですよ。」と、とくに個人思考の時間は設けずにチャットを促した。1 分弱で 6 人が回答してくれた（チャット記録 4）。



図 1



チャット記録 4

回答数が少なかったなので、すぐに次のように伝え確認を行った。「いいとこ読みますね。実はです、これ…いいですか、答え、言いますね。『あすかの子』なんです。そうです。〇〇さん正解です。おめでとうございます。』第 1 回答者を称賛し、簡単に地名に由来することも伝え、次へすすめていく。

スライド 6 を呈示し、「同じこと聞きます。この建物は何でしょうか。そしてそのように判断する根拠。まずはノートにですね、メモをつくってください。」と指示する。個人思考を 2 分ほど取り、その後チャット回答を促した。



スライド 6

授業者は学生のチャット入力と並行して、読み上げたり笑ったりしながら共有していく。チャット入力と内容共有には約 2 分要した。書き込みは全部で 40 件あった（チャット記録 5・6）。



チャット記録 5

2020/05/21 12:16

2 役所もしくは交流館
掲示板がそれっぽい

2 美術館

2 博物館 掲示板があるから

2 建物が大きく見えるので体育館だと思いました。

2 資料館

2 博物館

2 図書館 案内板のようなものがあるから。

2 図書館

2 掲示板を張るところがあるから

2 博物館 掲示板らしきものがあるから

2 図書館 掲示板があるから

2 資料館

2 児童館

2 前澤社長っぽい家だから

2 体育館

2 自分家理由は自分家だから

チャット記録 6

なお、チャット入力中、「根拠」を書かない回答が続いたので「根拠も書いて」と促している。最終的に「案内板」「掲示板」を根拠にあげた人が多い結果となった。

スライドはそのまま正解を伝える。「一応正解がありますので伝えます。博物館・資料館、です。正解した人、おめでとうございます。」と正解者を称賛し、次の課題に入っていく。スライド 7 を呈示する。



スライド 7

次のように発問する。「またちょっと違った視点で見てもらわないといけないかもしれません。今見てもらった写真の、共通点をあげてください。それと、もうひとつ言わせてもらおうと、その共通点はすなわち、その地域の特色なんです。共通点と特色、何でしょう。1 分くらい考えてみてください。」 個人思考のあとはチャット回答してもらう（チャット記録 7）。

2020/05/21 12:19

2 秋

2 レンガ

2 レンガ

2 レンガがある

2 建物が横に広い

2 自然が沢山ある

2 屋根が低め

2 針葉樹林

2 有り余る土地の無駄遣い

2 大体同じアングルからの撮影

2 自然が多い

2 入口がある

2 木

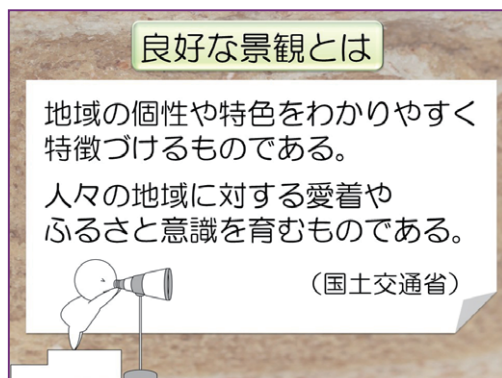
2 周りに緑がある

チャット記録 7

チャット入力と共有で1分半ほど時間が経過した。この間に全部で44件の書き込みがあった。

「建物ばかりでなくその周りにも目を向けてみるのもとても大事ですね。」と賛辞を贈りつつ、この2つの写真の共通点・特色が「レンガ」であることを確認する。さらに「大体同じアングルからの撮影」との回答に対して次のように伝えた。「実はこの2つの建物は向かい合わせに建っている建物です。私がくるっとふり返って撮った写真なんですよ。だからアングルが、高さがほぼ同じになっているんです。」

次に、スライド8を呈示し次のように伝える。「今、実は『景観』のことを勉強しているんです。」このように、この授業では「景観教育」^{注2}を通して教育と社会を結びつけていくことを強調した。スライド8の内容を読み上げ内容を確認し、次へすすめていく。



スライド8

スライド9を呈示し、次の発問をなげかける。「さきほどの2枚の写真（スライド4と6）と同じ地域で撮った写真です。黄色い枠の中の建物は昭和63年に都市景観賞というすばらしい賞を受賞しています。さて、いったいどういった理由で景観賞をもらったのか。受賞の理由を2つ考えてください。」約1分個人思考の時間をとり、その後チャット回答を促した。この発問では全部で35件の書き込みがあった（チャット記録8・9）。これまでと同様、約1分間チャット共有を行った。



スライド9

2	2020/05/21 12:25	レンガや石を工夫して使っているから。
2	2020/05/21 12:25	オオカミが来ても大丈夫
2	2020/05/21 12:25	賄賂
2	2020/05/21 12:25	周りの景色とマッチしている、周りを邪魔してない
2	2020/05/21 12:25	1. 建物の周りの自然を大切にしているから
2	2020/05/21 12:25	手作りなものと風景にあってるから
2	2020/05/21 12:25	ドングリに見えるから
2	2020/05/21 12:25	街の風景と合わせてるからと決める人の気まぐれ
2	2020/05/21 12:25	公衆電話なのにレンガが使われているから
2	2020/05/21 12:25	変わった形をしているから
2	2020/05/21 12:25	風景とあわせてるから
2	2020/05/21 12:25	町の景観を乱さないデザイン
2	2020/05/21 12:25	前澤社長いたから。裏金を回したから。
2	2020/05/21 12:25	赤いサイロ
2	2020/05/21 12:25	レンガを使ってるから
2	2020/05/21 12:25	・周囲の木と色が一緒だから ・審査員が親族

チャット記録8

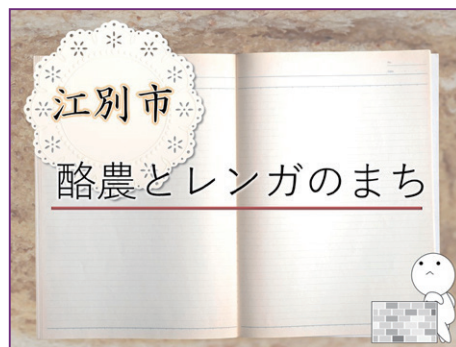


チャット記録 9

「受賞の理由」の確認をする。次のような内容を伝えた。「さっきの写真と同じ地域なのでひとつは『レンガ』です。書いてくれた方いらっしゃいましたね。このまちの特産であるレンガを使った。そして、もうひとつはこればっちり正解している人があるのうれしいです。『サイロ』なんですね。『赤いサイロ』って書いてくれていましたね。カーリング女子チームがもぐもぐタイムで食べていて

名前がすごい知れ渡りましたよね。受賞の理由は『レンガ』と『サイロ』です。」サイロそのものについての簡単な説明もした。

さらに、スライド 10 を呈示し、今回の授業で見た写真はすべて「江別市」のものであったことの確認をする。

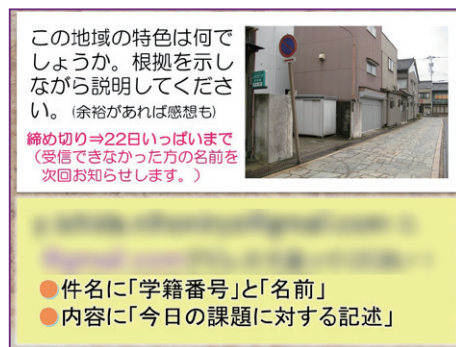


スライド 10

ここまでで約 75 分が経過していた。次回授業とのつながりを考慮して、今回の授業はここでいったん区切ることにした。（第 2 回目授業の発問総数 5 問・チャット回答総数 231 件）

III-3 第 2 回目授業の提出課題

最後にスライド 11 によって本時のレポート課題を呈示した。なお個人情報に関わる内容部分はモザイク処理している。



スライド 11

この課題を、授業用に特設したメールアドレスもしくは Teams の個人チャットで提出してもらった。締切は翌日とした。「地域の特色」に関する課題は、次回授業の予習になる内容である。さらにスライド 11 では、今回（第 2 回目）授業

に対する感想も求めている。そこでまず今回授業に対する感想（14 例）からみていく。また本論文では次のような授業者検討目標を掲げていた。「**看图アプローチを活用したオンライン授業で、『主体的・対話的で深い学び』をどれだけ達成できるか探索的に検討する。**」学習者たちが感想の中で「主体的・対話的で深い学び」の達成度についてどのように記述しているかをみていく。

学習者 1 の感想

今日も見る授業、アクティブラーニング授業凄く楽しかったです。「他の人の意見も聞きながら、授業をすることができるということは他の人の意見も共感することができるのでいいな」と思いました。もっとタイピングが早くなって、先生に「じゃーこの辺で」と言われる前に自分の意見を言えるようにしたいです。」

下線部 1 は授業に主体的に参加した結果としての記述と考えられる。下線部 2 は対話的に学んだことを示す記述である。また下線部 3 には、「タイピングが早く」できるようになって、もっと「自分の意見を言えるようにしたい」と主体的に考え、かつ深い学びにつなげようとする意欲が表れている。

学習者 2 の感想

教育学の授業はほぼ学生の大喜利大会みたいな感じですよ楽しい。」その雰囲気を感じ取って自分もぼけてみたり、それに対して他の学生がいいねを押したり先生が反応したり、その授業の感じがすごい楽しい。次回もそんな感じ。でお願いします！

下線部 1 からは対話的学びを楽しんでいる様子が見えがえる。また下線部 2 からは主体的に対話的学びの工夫をしている様子が見えがえる。下線部 3 では「次回もそんな感じで」取り組んでいきたいという、対話的学びから深い学びにつ

なげようとする意欲が表れている。

学習者 3 の感想

生徒と作っていくという授業形態のおかげで 90 分という長時間を苦と感じず、楽しく学んでいます。」特にチャット機能を生かしたアクティブラーニングは、教室で直接発言するよりずっと気楽に出来るので、活発な意見交換で思いもよらない視点を知ることが出来る。のはこの授業ならではの空気が成せるものだと思います。時々見る大喜利コメントも教育学の授業の楽しみの一つです。

下線部 1 は学習者 2 と同様、自分なりに楽しみを見つけ主体的に取り組めたからこそその表現であると考えられる。下線部 2 は対話的学びを示す表現である。下線部 3 は主体的・対話的学びを通して「思いもよらない視点」、つまり深い学びに至っているということを示している。またこれは学習者自身も深い学びの状態をモニターできていることを示す表現である。

学習者 1～3 のような感想はほとんどの学習者から寄せられている。こまかな分析は省略するが、以下の学習者 4 から 14 も「主体的学び」や「対話的学び」及び「深い学び」に言及している。紙幅の都合上、感想例は 11 例だけ載せておく。

学習者 4 の感想

今回の講義を受けて、チャットではいろいろな案があって同じ写真からでも見え方が違う人がいて面白いと感じました。写真から、憶測で考えることは楽しいですが、医療人になるうえで求められていることは、根拠をはっきり述べ答えを出すことが大切だと感じます。根拠を明確にして話すことがとても苦手ですが、「見る」ということを通して、少しずつ練習していきたいと思います。ありがとうございます。

学習者 5 の感想

前回のきゅうちゃんのレポートを見て、皆がそんな風に考えたんだなと思うと同時に自分はそこまで深く考えられなかったなと思います。これからついて行けるか不安になりました。今回の課題の街の特色を活かした建物づくりに興味がわきました。今まで建物の外観は観光地以外であまり気にしたことが無かったので今までちょっと損してたなと思います。自分の住んでる町についても全然知らないしこれを機に街それぞれの良さを見つけて自分の知識を増やし感受性を豊かにしていきたいと思いました。今日もきゅうちゃん可愛かったです！次の授業も楽しみです。

学習者 6 の感想

今日の授業を受け、私の町にも特色がないか考えてみました。私の住む町は〇〇像があり、とても自然豊かでした。なので、牧場が沢山ありました。授業を受ける前は特色など考えた事が無かったのですが、授業で写真を見てどのような建物なのか、どうしてそう判断したのか、共通点などを周りの意見も見ながら自分でもよく考え、自分の町はどんな特色があるのか考えるきっかけとなりました。また、自問自答しながら授業を受けたのでとても考えが深まり楽しかったです。とても楽しく、考えが深まる授業でした！

学習者 7 の感想

家の色が茶色になってたり全体的に木造で屋根とかを見ると昔の日本をイメージして創っているのかなと思いました。まるでその時代にいるような感じになっているような感じがしたり、全体的に落ち着く色だなと思うので街の人も優しいのかなと思えるような雰囲気だなとも感じました。今回の写真が全部江戸別にあるとは思ってなくてこんなところもあるんだって思いました。またここがどんな所な

のかとか自分で考えることが楽しかったです。自然と笑ってました！今は出来ないけどまた外を普通に出かけようになっいたら家族や友達とで色んな楽しい場所に行きたいなと思いました。

学習者 8 の感想

今回も見学を続けて感じたことは「見て」「観察」そして「考察」、それを「言葉に表現する」という手順があることで、自分なりの考えをまとめることができ、且つ他の人の意見と比較することができました。比較ができることで異なる発想をする人に興味が湧き、また根拠の提示をすることで、意見の共有もすることもできました。ネット授業だからこその授業なので、大変ですが「見る学習」を頑張っていきたいと思いました。先生も疲れることと存じていますが、引き続きよろしくお願いします。

学習者 9 の感想

今日の授業は、前回よりみんなコメントしている気がした。みんなで作っている感じがとても楽しい、対面授業だともっと色々意見が出てもっと盛り上がると思った。先生の選ぶ写真のセンスが授業を活発にしているのではないかと思った。

学習者 10 の感想

前回の課題の例を出していて、自分と同じような内容が多く見られて共感する部分がありました。地域の特色の問題で、実は向かい合ってる建物だと言われた時に思わず「やられた！」と声に出してしまいました。次回の講義もとても楽しみです。

学習者 11 の感想

今日の授業のように、身の回りにある景色について考えたことは今まで無かったので貴

重な時間になったと思います。見ることでここまでみんなの意見が広がるとは思わなかったし、そういう見方もできるんだ！と思ったこともあったのでもっと自分の視野を広げたいと思えるきっかけになりました。

学習者 12 の感想

前回の時も書きましたが人それぞれ感じるものが違うんだと改めて思いました。途中で大喜利的なことをしてる人がいて（真面目だったらすみません）とても楽しく授業を受けることができました。

学習者 13 の感想

今日の授業もチャットを使用したかたちで、他の人の考えもわかりとても楽しい授業でした。このオンライン授業が始まり、数ある授業の中で教育学が唯一楽しみになる授業になりました。ほんとうにありがとうございます。

学習者 14 の感想

今日の授業も、みんなとチャットで意見交換ができて、楽しかったです。先生が紹介してくれた E さんの感想^{注1}が、私も今日初めて聞いて、鳥肌が立ちました。めちゃめちゃ良いことを言う人だなあと、少し感動しました。みんなの感想を紹介してくれることも、共感することが多々あったので、授業の初めにそういうのを紹介してくれるのはとても良いなと思いました。教育学が週に 1 回しかないのが、少し寂しいです。次回の授業も楽しみです。

感想例をみてわかるように、本授業でも学習者たちは「見る」授業とチャットの活用に対して高い満足感を示してくれている。学習者たちはチャットの操作にも慣れてきて、前回以上に、「いいね」を押すなど独自の楽しみ方も見出し始めて

いた。「見る」とチャットを活用することは、オンライン授業を成功させる効果的な手立てになる。

IV. 次時予習も兼ねたレポート課題（＝次時のための診断的評価）の結果と考察

前述したようにスライド 11 は次時授業の予習になる内容である。かつ、学習者が次時の内容についてどのくらいの既有知識をもっているかををはかる診断的評価の役割を果たす。そこで、次時授業計画の参考にするため学習者たちの典型的なレポートを 5 例載せておく。

学習者 15 のレポート

地域の特色は昔の風景や歴史的建造物を大切にしている、伝統を受け継いでいると思いました。写真には歴史的建造物は写って無いので建造物があるかどうかは分かりませんが、左の 3 つ目の家の屋根が瓦屋根っぽく、奥の建物が昔のお店のように見えました。また、瓦屋根っぽくない普通の家も茶色で統一されていて色に深みがあり、昔からの伝統を受け継ぎ守っているように見えました。

学習者 16 のレポート

この地域の特色は、少し古びた建物が狭い感覚で並んでいることです。また止まれ標識が傾いているため、交通整備もあまりされていないと推測できます。ビルなどがなさそうなので、都市部から離れている住宅地の可能性もあります。歩道がタイル状になっているので、自分自身の感想としてはどこか懐かしく感じる、良い雰囲気に感じました。

学習者 17 のレポート

私の考える地域の特色は、昔の街並みが保存されていることだと思います。写真の様子から、時代は大体江戸っぽく感じます。石畳の道路といい、家の屋根が瓦であることも

特徴です。昔瓦が使われていたとすると寺の多い地域なのかもしれません。また家の周りに高さのある石が建てられています。今でも残っているということは、世界文化遺産のような大事に国で大切にされている地域であると考えます。また、北海道は、冬瓦で過ごすことが出来ないのが私の予想としては、京都だと感じます。

学習者 18 のレポート

特色…昔からの伝統を大切にしている、住民の地域愛がある。

根拠…家の屋根が三角形で瓦でできている。現在、家を建てる際に屋根は瓦でないもので造られることのほうが多いが、課題の写真に写っている家の屋根は瓦でできているものが多い。そのため、ここの地域の住民は昔からの伝統を大切に、地域愛が強いからこそ瓦の屋根を使用しているのではないかと考える。

学習者 19 のレポート

写真のまちは、全体的に茶色で統一されていて、建物の高さも同じぐらいで、屋根も昔ながらのデザインになっており、床もアスファルトではなく、石畳になっているため京都のまちと似ていると思いました。この昔の日本を思い出させるような古風感やふるさと感がこのまちの特色だと思います。

スライド 11 の写真から「地域の特色」を読み解く課題では、「昔」「伝統」「懐かしさ」「江戸っぽい」「古風感」というような言葉が多く遣われていた。これらは写真を感覚的に見て「感想」を述べているものである。ほとんどの学習者が、写真を詳しく読み解いて自分の答えを導き出していくという段階には至っていなかった。

第 1 回目授業でも第 2 回目授業（本時）でも学習者たちは、授業中に行ったビジュアルテキストの読み解きができていた。しかし、このレポー

ト課題のように、学習者が独力でビジュアルテキストを読み解かなければならない状況に置かれた場合、学習者たちは「見て読み解く」ことが充分にできないのである。「見て読み解く学力＝ビジュアルリテラシー」を育てていくためにはさらに時間が必要なのだと思う。

学習者たちが「見て読み解く学び」を主体的にできるようにしていくために、第 3 回目の授業を行った。どのような授業を行ったのか、また学習者たちはどのように成長していったのかについて、次の論文で紹介していく。

引用・参考文献

石田ゆき・山下雅佳実・鹿内信善 2019 「創造性を育むツールとしての看図アプローチ—絵本づくり授業実践の報告—」『全国看図アプローチ研究会研究誌』1 号 pp.2-15

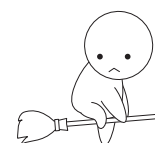
石田ゆき 2021 「看図アプローチを活用したオンライン授業の実践—医療系大学における『教育学』授業を例にして—」『全国看図アプローチ研究会研究誌』5 号 pp.3-16

奥泉香 2018 『国語科教育に求められるヴィジュアル・リテラシーの探究』ひつじ書房

鹿内信善 2015a 『改訂増補 協同学習ツールのつくり方いかし方 看図アプローチで育てる学びの力』ナカニシヤ出版

鹿内信善 2015b 「『看ること』から始める授業づくり 看図アプローチとは何か」『看護教育』56 巻 8 号 医学書院 pp.774-779

注 1 前報で紹介を省略した「きゅうちゃんアイスブレイク」の内容のことである。以下にその内容を載せておく。とくに下線部のことを指している。



「E さん」が選んだ 1 番のきゅうちゃん

「前回のふりかえりコーナー」を設けたことを、学習者 14 は「みんなの感想を紹介してくれることも、共感することが多々」あるとポジティブに評価してくれている。オンライン授業において授業者は、学習者が画面の向こう側で一緒に授業を受けている仲間がいるということを感じられるよう配慮・工夫する必要がある。チャット活用でリアルタイムな関わり合いを実現できる。また、レポート紹介でその結果生まれた成果を共有する関わり合いができる。

参考までに「景観教育」「まちづくり教育」に関する鹿内他の研究文献リストをまとめておく。またその際、第2筆者以降の氏名ローマ字表記に関わらず公刊年次の順に文献名を配列する。

石川清英・伊藤裕康・石田ゆき・伊藤公紀・
鹿内信善 2013 「ヴィジュアルテキスト

トの読解指導を取り入れた大学授業の改善 (VII)－『水』をキーワードにした『まちづくり概論』授業の追実施－『道都大学紀要美術学部』 第 39 号 pp.39-58
 鹿内信善・石川清英・伊藤裕康・石田ゆき・伊藤公紀 2013 「ヴィジュアルテクニストの読解指導を取り入れた大学授業の改善 (VIII)－『まちづくり概論』の導入部分の教材づくり・授業づくり－」『道都大学紀要美術学部』 第 39 号 pp.59-74
 鹿内信善・伊藤裕康・石川清英・石田ゆき・伊藤公紀 2013 「ヴィジュアルテクニストの読解指導を取り入れた大学授業の改善 (IX)－『くらしと景観』と『まちづくり概論』の接続－」『道都大学紀要美術学部』 第 39 号 pp.75-89
 伊藤裕康・石川清英・石田ゆき・伊藤公紀・鹿内信善 2014 「ヴィジュアルテクニストの読解指導を取り入れた大学授業の改善 (X)－『産業景観』を教材とした『くらしと景観』授業の追実施－」『道都大学紀要美術学部』 第 40 号 pp.57-67
 ＊手に入りにくい論文もあります。各論文にアクセスできない場合には全国看図アプローチ研究会ホームページお問い合わせフォームよりご連絡ください。

注 3 本研究の一部に 21530969・19K10791 を活用した。

2021 年 2 月 14 日受付
 2021 年 2 月 20 日査読終了受理